

a 学校教育目標	夢に向かって かかわり合いながら 伸びていく子どもの育成	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命) 将来の夢と生きる力を育み、ふるさとを愛する人材の育成 【ビジョン】(自校の将来像) 知・徳・体のバランスのとれた子どもの育成 家庭・地域と連携した「協育」の推進 保護者や地域の信頼に応える学校づくり
----------	------------------------------	----------------------	---

c 中期経営目標	d 短期経営目標	評価計画		自己評価							改善策		学校関係者評価		
		e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	改善策	評価				
					h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ	コメント	
確かな学力 基礎基本の定着と論理的思考力・表現力の育成	○学力調査等前年比2pアップ	①単元終了ごとに小テストを行う。	国・算単元末テストCRT	80%	80	100%	125%	A	単元末テスト全校平均は87点で8割を超えている。	2月に実施したCRTテストを分析して課題となっている問題を把握し次年度に生かすとともに、習熟を図る。	○	○	○		・125%は先生の指導力の結果。 ・朝のホームルームの時に5分間テストのようなものを毎日やってはどうか。
	○考えの足跡が残るノート	②月一回ノート交流する(国語の説明文単元では指導者のコメントを入れる。)	児童アンケート	80%	100	100/70	106%	A	月一回のノート交流はできた。指導者のコメントは、毎時間書くことはできなかったが、単元の始めや終わりにはできた。	単元の始めにコメントを書くところを大まかに決めておくようにする。よさを認め、書かせばなしにならないように短くてもよいのでコメントを入れる。	○	○	○	・学力との関係がよく分かりません。	
	◎授業モデルの確立と構造的な板書	③授業モデルの設定 説明文では学習計画を児童に明示する。	授業モデルができたか。学習計画を明示できたか。	100%	100	100	100%	A	授業モデルに沿った授業、学習計画の明示は定着しつつある。	授業モデルの意見交流活性化を目指して授業づくりを進めていく。話し合いの仕方モデルを提示し、まずはそれに沿って意見交流をさせる。	○	○	○	・学力との関係がよく分かりません。	
	◎家庭学習時間の達成(低30分 中45分 高60分)	④学習時間の設定と自主学習に取り組ませる。	実態調査(生活習慣調査兼)	85%	100	100%	118%	A	家庭学習の設定時間は達成できた。	自主学習では、復習を基本とし、高学年に向けて予習や発展的な内容に取り組んだり、個別の課題を用意したりして、個に応じた内容にしている。	○	○	○	・自主学習の取組みを充実させてほしい。	
	○作品応募年間3回	⑤作品応募を紹介していく	応募回数	3回	66	40%	75%	C	各学年とも2回はできた。	夏休みの作品応募に必須課題を設けていく。新聞の投稿欄に応募する。	○	○	○	・2回できればBでよいのではないかな。	
	◎家読1週間 40分	⑥「家庭で一緒に読書」カードの取組みをする	実態調査(生活習慣調査兼)	70%	60	55%	78%	C	家読1週間40分は声をかけないといけない児童が多いので定期的に声をかけていく。保護者に親子で読書の話はしたが、カードの取組みができていない。	再度家庭へも家読の声かけを行い、協力を得ながら「読書カード」の取組みを進める。また、推薦図書の話板に取組む。	○	○	○		
豊かな心の育成 社会的なルールやマナーを身につけた子どもの育成 北方小「あ」の実践	○元気の出る挨拶と「はいっ」の返事	○授業中等できちんとした返事・挨拶に取り組む。	職員・児童・保護者アンケート	80%	70	69%	86%	B	挨拶をすることについては全校で統一できている。声の大きさや語尾をのぼすなど「きちんとした挨拶」の達成率が低い。	授業中の返事の仕方を中心にきちんとした挨拶を指導していく。職員もモデルとなるようなあいさつを心がける。	○	○	○	・心がけるのではなくする。(意識を持つ。) ・挨拶は習慣づけが大切。	
	○くつ・スリッパそろえ	○くつ・スリッパそろえの習慣をつけるため、そろえ点検週間を作り、子どもたちに意識つける。	職員・児童・アンケート	80%	50	60%	75%	C	下駄箱の靴そろえは大体できているが、お手洗いのスリッパは、声をかけている時は意識しているが習慣ができていない。	定期的に朝会、下校時に意識付けを行っていく。家庭でもくつそろえの実践ができるようにお願いしていく。	○	○	○	・言うてもだめとあきらめるのではなく、とにかく言い続ける。	
	○黙ってすみずみまで掃除	○掃除の反省で振り返りをさせる。	職員・児童・保護者アンケート	80%	70	70%	87%	B	掃除終了後のふり返りは100%できた。ふり返りが形骸化している。黙って掃除をすることを意識しはじめている児童が増えた。	次年度は、ここまでできたらOKというものを示していく。ふり返りの内容(時間・だまっで、きれいになったか)を見直していく。	○	○	○		
	○3分前行動	◎朝会・掃除時間に、3分前行動をすることを指導する。(放送)	職員・児童アンケート	80%	70	70%	87%	B	放送をきいて行動に移そうとする努力はみられるようになった。	次年度は5分前の放送と時間を見て行動する取り組みを進めていく。	○	○	○		
	◎廊下や階段の右側歩行	◎朝会時は、教室から整列して、無言で右側歩行することを徹底させる。	職員・児童アンケート	90%	70	80%	88%	B	朝会に行く時は整列無言は徹底されてきたが、朝会後の移動が十分とはいえない。	朝会時は職員と一緒に移動し、朝会時以外の廊下歩行については職員全員で統一した指導をしていく。	○	○	○		
	○通学班で登下校	○月1回のあいさつ運動と学期に1回、下校時に担当学区の下校指導をする。	保護者アンケート	80%	85	80%	100%	A	保護者アンケートでは、67.5%の保護者が登下校時の挨拶がよいと肯定している。通学班での登下校の態度はよくなりつつあるが全体的に声は小さめである。集団での登下校について意識はしているがばらばらになったり時刻に間に合わない児童がいる。	道徳の時間で挨拶について自分自身をふり返る機会を設け意識付けを図る。登下校では通学班の様子を見ながら話し合いの機会を設定し指導していく。高学年が挨拶のリーダーとなるよう励ましていく。	○	○	○	・挨拶は今一歩だと思う。 ・保護者アンケート67.5%ではなく、限りなく100%に近づける。	
健やかな体の育成 基礎的な生活習慣の定着	○体育の時間には、柔軟運動・サーキットを取り入れる。	体カテスト	70%	60	柔軟60% サーキット100%	柔軟85% サーキット142%		B A	サーキット運動を取り入れることで握力は伸び、縄跳びや持久走で持久力もついてきている。柔軟性に課題がある。	体カテストの柔軟種目を行い、児童に運動成果を確認させる機会を持つ。次年度は、準備体操に柔軟性を高める体操を全学年実施していく。	○	○	○		
	○バランスのよい体づくり(柔軟性・握力・持久力)	○縄跳び大会に向け、目標を設定して練習する。(縄跳びカード)	縄跳びカード	75%	0	73%	97%	B	初めての行事のため目標設定が高すぎた児童が見られた。	次年度も、児童に目標設定をさせて縄跳びカードを活用しながら練習させるとともに、個に応じた目標設定ができるように指導していく。	○	○	○		
	○マラソン大会に向け、目標を設定して朝会時に3分間完走に取り組む。(マラソンカード)	マラソンカード	75%	0	84%	112%	A	マラソン大会に向けて、マラソンカードを活用して取組み、自分の目標に向かって取り組むことができた。	次年度も、マラソンカードを活用し目標設定をさせて取り組む。(今年度の記録を残しておく。)	○	○	○			
	◎忘れ物0の日(ハンカチ・ティッシュ・マスク)(学習準備)	◎健康観察時に確認し、必要に応じて指導していく。	実態調査	80%	75	82%	100%	A	1月2月前半で5回以上忘れ物した児童は18%である。忘れていた児童は固定化している。	継続して全体・個人の指導をしていく。	○	○	○		
信頼される学校 協育の推進	◎便りの内容の充実	◎月1回担当者の経営方針を伝える通信を発行する。	保護者アンケート	80%	60	77.5%	97%	B	月1回は経営方針について読めることができた。保護者アンケートでは前回の評価と比較すると3ポイント下がっている。取組みについて、情報発信が不十分で伝え切れていないところがあった。	来年度も、経営方針を伝える一つの手段として、通信を活用していく。保護者アンケートでは22.5%が否定的評価をしている。学校のどんな様子が知りたいのか保護者に聞いてみることも必要である。	○	○	○	・経営方針という単語がひっかかる。他の用語は使えないか検討する。	
	◎HP 月1回更新	◎HPアップの日を設定する。(学級のページを更新)	更新回数	月1回	100	100%	100%	A	毎月の更新はできた。	学年のページや行事の更新を計画的に行っていく。保護者がどのくらい見ているかアンケートを取ってみる。	○	○	○	・私は見たことがありません。HPについて保護者へももっと働きかけてはどうか。	
	◎保・幼・中との連携	◎年間計画に位置づけ、連携を行う。	回数	10回	7回	11回	110%	A	職員同士の交流は計画的にできた。(校長・教頭・教務主任・生徒指導)保育所、幼稚園との交流もできた。	今年度の交流が分かるように整理し、来年度に生かす。	○	○	○		
	○地域を活かす学習	○年間計画に位置づけ、保護者や地域を活用した授業づくりをする。	活用回数	10回	10回	27回	270%	A	学年合計で3学期は17回、年間合計27回で目標回数を大きく上回った。	引き続き地域の方の協力を得て教育活動を進めていく。今年度の実績を来年度に生かせるようにしていく。	○	○	○	・本校の特長として今後も「地域と共に」を大切にされた	

【:学校関係者評価 評価】

イ:自己評価は適正である。ロ:自己評価は適正でない。

【j:自己評価 評価】
A: $100 \leq$ (目標達成) B: $80 \leq$ (ほぼ達成) < 100
C: $60 \leq$ (もう少し) < 80 D: (できていない) < 60

【i:学校関係者評価 評価】
イ: 自己評価は適正である。 ロ: 自己評価は適正でない。
ハ: 分からない。